

すべての人が子育てしやすい環境づくり

遠藤 久子

子育てに係る地域の支援、見守り活動について

乳幼児一時預かり、あいサポ(平成 18 年 5 月～)

- ・ 鷺宮地区独自のもので、地区町会連合会、民生児童委員会、青少年育成委員会等が支援して、鷺宮児童館で行っている。
- ・ 子育て経験者のボランティアが、母親たちにリフレッシュする時間を提供している。
- ・ 乳幼児親子と直に接することで、現在の子育て事業や課題を把握できる。
- ・ 1 対 1 でサポートしているので、とてもリピーターが多い。

子ども食堂 さくら(平成 30 年 6 月～)

- ・ きっかけは、民生児童委員会の研修で区内の子ども食堂を見学して身近な存在となり、しらさぎ桜苑の支援と社会福祉協議会の協力によって、地域のボランティアを募り子ども食堂を立ち上げ、しらさぎ桜苑で行っている。
- ・ 貧困の子ども達への支援から始まったが、現在は親子連れから高齢者までの憩いの場となり、広く地域の見守り活動となっている。

学校の下校見守り

- ・ 学校側と PTA 保護者からの強い要望があり継続して行っている。
- ・ 新一年生が対象なので二週間～一ヶ月程実施している。
- ・ 子ども達と身近な大人との信頼関係を築いている。

交通安全対策

- ・ 中野区は、他区と比べ自転車事故が非常に多い。
- ・ 小学 3 年生を対象に、警察署による自転車安全教室を実施している。
- ・ 「自転車安全利用五則」に基づき、子どもの事故を減らす努力をしているが、「子どもの前でルールを守らない大人がいるので、子供への説明に困る。」との保護者の意見が多い。

防災訓練

- ・ 地域の防災訓練は、親子参加が多く真剣に取り組んでいる。
- ・ 小学 3 年生以上は、大人と同じ道具を使用した訓練を実施している。
- ・ 日頃の訓練がいざという時に自助、共助、公助につながる。
- ・ 町会連合会では、消防署と連携して、中学生参加のバケツリレー大会、軽可搬ポンプ操法大会を実施している。(今年度からは、誰でも扱いやすいスタンドパイプで行う)

防犯の必要性

- ・不審者メールが頻繁に入ること、保護者の不安が大きい。
- ・子ども達と花壇作りや通学路のパトロールをして危険箇所のチェックをしている。
- ・子ども達が、自ら青パトに乗り犯罪防止を呼び掛けている。
- ・町会・商店街では、防犯カメラを設置し犯罪防止を強化している。
防犯カメラの維持費も区の助成金で解消に向かい、今年度も増設される。

区民活動センター運営委員会

- ・鷺宮地区町会連合会など、地域の公益的な団体から推薦された方を中心に運営委員会が組織され地域に貢献しているが、鷺宮地区は運営委員の中に PTA 役員がいるのが特徴。
- ・イベント全般に携わり、アイデアを出し合い活躍している。
- ・地域事業は、若い世代にも理解され町会の会員数が増えている。
- ・これからのイベント内容の充実や、学校統合による場所の移転、学校跡地の利用方法等、様々な問題と取組みながら地域活性化につなげている。

共同住宅では

- ・現在、都営住宅は、若い世代に抽選確率が高いとの理由で、10 年間契約の入居者が多い。
- ・輪番制の役員は、年代のバランスも良くコミュニケーションがとれている。
- ・月 1 回の庭掃除も必ず子ども達が参加している。母親もほぼ全員パートをしながら PTA 活動も頑張っている。
- ・集会室を利用してバザー、イベントなどの開催で、近隣との交流が出来ている。また、高齢化も進み、安否確認、見守り支えあいとは必然だが、昔ながらのお互い様・おせっかい精神の絆が出てきている。

町会・自治会の課題

- ・高齢化によるボランティア、町会・自治会の担い手不足
- ・学校・団地とも国際色豊かになり、日本語を話せない親たちへの対応
- ・町会の掲示板が減少
- ・防犯カメラの設置場所に苦慮している。